



市民ネットワーク鶴ヶ島は
大野ひろ子を
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	NO. 24

6月議会報告 2017. 8
 発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島
 鶴ヶ島市富士見3-27-106
<http://www.tsuru-net.org/>
 eメール: tsurunetorg@gmail.com



異常気象が、まさかの災害を引き起こしています。

平成16年からの10年間で、豪雨、水害、土砂災害など異常気象による自然災害が増えています。そして、今、九州北部で大雨による甚大な被害が発生しています。

平成27年9月10日北関東の豪雨による鬼怒川の決壊では3千戸以上が浸水。茨城県常総市では、住民が、屋根からヘリコプターで救助される事態になりました。地球温暖化の影響から、日本のどこの地域も短時間に強い雨になる傾向は増えています。

いっどこで、どの程度の雨となるのか。それを、定期的にピタッとあてるのは、現在の技術では困難だと言われています。

気象庁から発信されている重大な災害情報が自治体に十分伝わらず、迅速な避難行動に結びつかない例から「特別警報」ができました。でも、それを待つてから避難するのは本当に助かるのか不安になります。

都合のいい情報は聞かせるが・・・

防災情報は、頻繁になると、オオカミ少年になつてしまふ恐れもありますが、致命的被害を防ぐには、自治体が、情報を出すことをためらわない姿勢が求められます。

避難が面倒だと思っていれば、都合が悪い情報は通り抜けてしまい、逆に、水位はゆっくり上がるのか、都合の良い情報は聞こえるのが人間の心理なのだそうです。

情報を出す側も、受ける側も、安心に取れる情報を切り捨てることも考えなくてはならないでしょう。

また、早めの避難行動がとれるように、明るい時間帯に情報を伝えることも考慮

すべきです。

住んでいるまちの歴史を知る

戦前の日本の物理学者寺田寅彦氏の著書「天災と国防」に、古い村落、また古い神社の一角が残っているという記述があります。

長い歴史の中で、災害に学び、住んできた場所は無事な場合が多いという教訓になっています。

災害にあつてもハザードマップを見たこともなかった、という人も多いようですが、自分の住んでるところはどういうところかを知っておくことは、命を守るうえで重要なことです。

障がいのある方にも使いやすいハザードマップも必要です。

鶴ヶ島市では、現在「荒川水系（埼玉県域）大規模氾濫に関する減災対策協議会」の中で避難勧告の発令に着目したタイムラインの作成に取り組んでいます。

*鶴ヶ島市地域防災計画は平成28年度に改定。ハザードマップは、平成21年に作成全戸配布、現在は、ホームページで公開しています。

